

開催期間:

2012年7月14日から2012年7月16日

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

10members

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

支援者:

愛知用水を運営する法人、愛知用水の保全に取り組む団体

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

予算:

22,859 US dollar

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

NONE

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

半田市とその周辺に住む約25万人の市民のため

主語を忘れないように「我々 JCIOOは、」「我々委員会は、」です。

目的:

この地域を、お互いを助け合い生活することができる地域にするために、次の人材を1人でも多く誕生させる。

- ①相手の立場に立って考え、行動することができる人材 (相互理解と compassion)
- ②困っている人や地域を助けることができる人材 (なすべきを成す)

3行程度 400字以内

【背景】

東日本大震災が発生し、私たち日本人は、困った時に助け合うことができる関係の重要性を再認識した。JCI半田は、この事を地域社会に反映すれば、住みやすい地域社会を創造できると考えた。そのために、互いに助け合うことができる人を、より多く誕生させることが重要と考えた。

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

概要:

JCI半田は、世界銀行への融資を受け、当時のアメリカの土木先端技術を用いて完成された、戦後日本の代表的な土地改良事業である愛知用水の成り立ちを題材とした。
愛知用水を題材とした理由は次の通りである。

- ・農家の青年と高校教師の青年が中心となり、日常的に水不足に困っている人を助けたいと強く思い、自分の人生の全てを掛けて完成された用水である。
- ・一般市民である彼らが、国や地方の役人が資金不足により、用水計画は実現出来ないと判断していたことを実現したこと。
- ・普段あたり前に使っている水が、先人の情熱によってもたらされていることがわかる。

全部で 400 字以上

- ① 私たちと子どもたちは、2泊3日の行程で、愛知用水の水源である牧尾ダムから終点の日間賀島まで、移動した。私たちは、バスを使用し、時に徒歩も交え移動した。
- ② 私たちは、移動中、各地において、子どもたちに、OMOIYARI 運動を軸としたプログラムを行った。そして、子どもたちが、他人を助け合う行動に移すための、プログラムを行った。
- ③ このプログラムは、次のような構成である。
1. 子どもたちが、世の中のあたり前のことでも、誰かが、誰かのために行動して成り立っていることを実感する。
 2. その行動に感謝をし、誰かのために行動する大切さを理解する。(compassion)
 3. グループ毎に、相手の立場を考え、助け合えることを話し合う。(相互理解)
 4. 話し合ったことを、行動に移す。(成すべきを成す)
 5. みんながうれしい気持ちになったことを実感する。(compassion)
 6. グループ毎に、友人や家族に行う助け合いについて、行動宣言を行う。(成すべきを成す)
- 1 および 2 は、愛知用水の成り立ちを、当時を知る人の話を聞いたり、水を汲んで遠方に運ぶことなどで行った。
- 4 および 5 は、愛知用水沿いを徒歩で移動する時に助け合うこと、また、グループ毎の行動時に実践をした。
- ④. 子どもたちは、帰宅後、行動宣言を、家族や友人に対して実践した。(成すべきを成す)
- ⑤. 私たちと子どもたちは、後日集まり、家族や友人に対して、助け合えたことなどを確認し合い、今後も思いやり、助け合いの行動を続ける決意をした。(成すべきを成す)

主語を忘れないこと、単語は 7 つ以下で 1 文とすること

結果をきちんと確認しないとココは書けません。
解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり
関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。

結果：

子どもたちは、実際に家族や友人に対し、相手の立場を考え、助け合いの行動ができた。
子どもたちは、今後もまわりの人のことを考え、行動していくことを決意できた。
結果、相手の立場に立って考え、実際に行動できる子どもたちが増加した。

- ①アンケート結果によると、
より一層、相手の立場に立って考えることや助け合いの大切さを感じられたと答えた子どもが100%、
特に、強く感じられたと答えた子どもが50%であった。
チームみんなで考えた行動宣言を実行すると答えた子どもが68%、
自信はないが、少しは実行できそうだ、と答えた子どもが32%であった。
- ②後日集まり、行動宣言の実施を確認した時には、80%の子どもが、実際に行動できたと答えた。
- ③今後も行動宣言を続けていく決意をした時には、宣言に躊躇する子どもは一人もいなかった。

検証結果を簡潔に書いて下さい

主語を忘れないこと、単語は7つ以下で1文とすること

行動:

2011年
10月～11月 題材の選定のための研究および現地調査
12月5日 題材を愛知用水とすることを委員会で決定する。
2012年
1月～4月事業実施に向けた現地調査(計8回)
2月～5月 協力依頼団体との打合せ(6団体、計10回)
5月～6月 教育委員会へ参加者募集のお願い(計6教育委員会)
6月 各地小・中学校へ参加者募集のPR(計10小学校・中学校)
6月～7月最終現地調査(計5回)
6月22日 事前説明会(JCI 半田向け)
6月30日 事前説明会(参加者向け・保護者同席)
7月14日～16日 事業開催
7月17日～24日 アンケート回収
7月26日 事業およびアンケートの検証
8月4日 事業報告会(参加者向け・保護者同席)

全部で200字以上
2000字以内程度

読めば委員会の事業前から
事業後までの動きが
だいたい、大まかに解るようにして下さい。

考察や推奨

JCI 半田は、相手の立場に立って考え、実際に行動できる子どもたちを増やすことに成功した。
この結果を導くことができた要因に次の事項が挙げられる。

・私たちは、インパクトのある題材を選定した。

特に、あたり前と思っていることが、誰かの努力と情熱で成り立っていること。

その情熱は、困っている人をなんとかかしたい、という思いから成り立っていたこと。

という点に注意して選定した。

こうして選定した愛知用水は、現在では想像もつかない、努力で成り立っていた。

・私たちは、知識だけでは想像のつかない先人の努力の一端を体感させ、理解しやすい環境を作った。

私たちは、当時の水不足による不便さや、交通の不自由な時代に歩いて、測量を行ったこと

などを体験させ、イメージを持ちやすくした。

なにより、子どもたちに愛知用水に情熱を注いだ本人と会わせた。

・私たちは、仲間意識を持たせ、行動宣言に対する責任を持たせた。

参加した子どもたちへのアンケート結果では、「みんなで行動宣言をしたからやりたい」、

「みんなで助け合えたから、やり切れた」という意見が多く見られた。

・JCI 半田は、プログラムの一部で、子どもたちに、自分が助け合いの行動をした結果、

グループがどう変化したかを考えさせた。

そのことから、子どもたちは、助け合いの行動の結果、自分や周りが幸せになることに気付き

実際に行動をするモチベーションとすることができた。

参加した子どもたちの保護者からのコメント。

保護者から、「友達と考えて決めた行動宣言を思い出して実行するようになった。」

「子どもの心に成長が見られる」とのコメントを得た。

JCI 半田は、保護者も事業の趣旨を一緒に理解できるように努めた。

JCI 半田は、保護者に、この事業の説明会、報告会に同席を求めた。

JCI 半田は、子どもたちと保護者が一緒にアンケートの記載を行うように依頼した。

結果、保護者も意識して子どもたちを観察し、変化に気付き、感謝の言葉につながった。

保護者の評価を、客観的に、より積極的に得る仕組みを構築すれば、さらによかった。

	<p>保護者からのコメント</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの心に成長が見られた。また参加させたい。・子どもの心の成長が大きくなり、嬉しく思います。・友達と決めた行動宣言をしっかり覚えていて、思い出して実行するようになった。・子どもを学ばせながら楽しくすごせるとてもよい事業である。
	<ul style="list-style-type: none">・中日新聞への掲載(発行部数約13万部)